

タイ王国における透析医療の現状

○川述 慎太郎¹⁾, 安部 貴之²⁾, 大坪 茂³⁾, 葛原 敬八郎⁴⁾, 秋葉 隆³⁾

1) 関川病院 臨床工学科

2) 東京女子医科大学 臨床工学部

3) 関川病院 内科

4) 関川病院 バスキュラーアクセス治療センター

【目的】

東京都臨床工学技士会主催によるタイ医療施設視察において、透析クリニック及び、総合病院の2施設を訪問した。それぞれの施設で提供している透析医療について調査したので報告する。

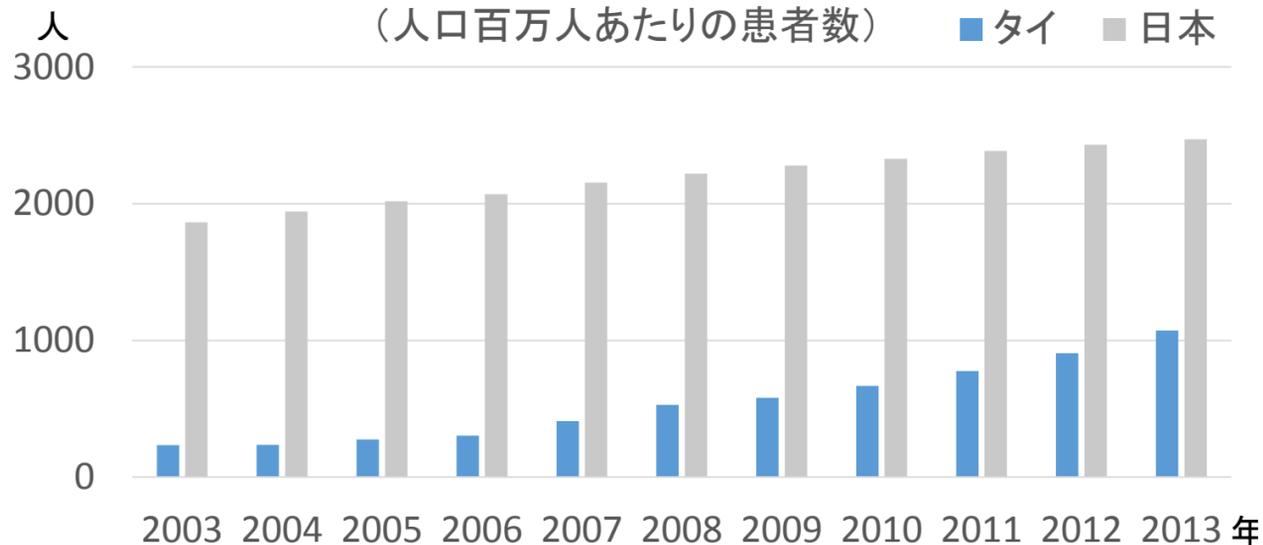
【タイの透析医療事情】

タイでは2003年から2013年において約4.5倍の増加がある。日本では2003年から2013年において約1.3倍の増加であった。タイでは日本に比べて透析患者の増加率が高い。

タイでは2003年には301施設、2013年には576施設と増加傾向にある。2003年から、10年間で増加は約1.9倍と透析患者数の増加よりもゆっくりとしたペースではある。

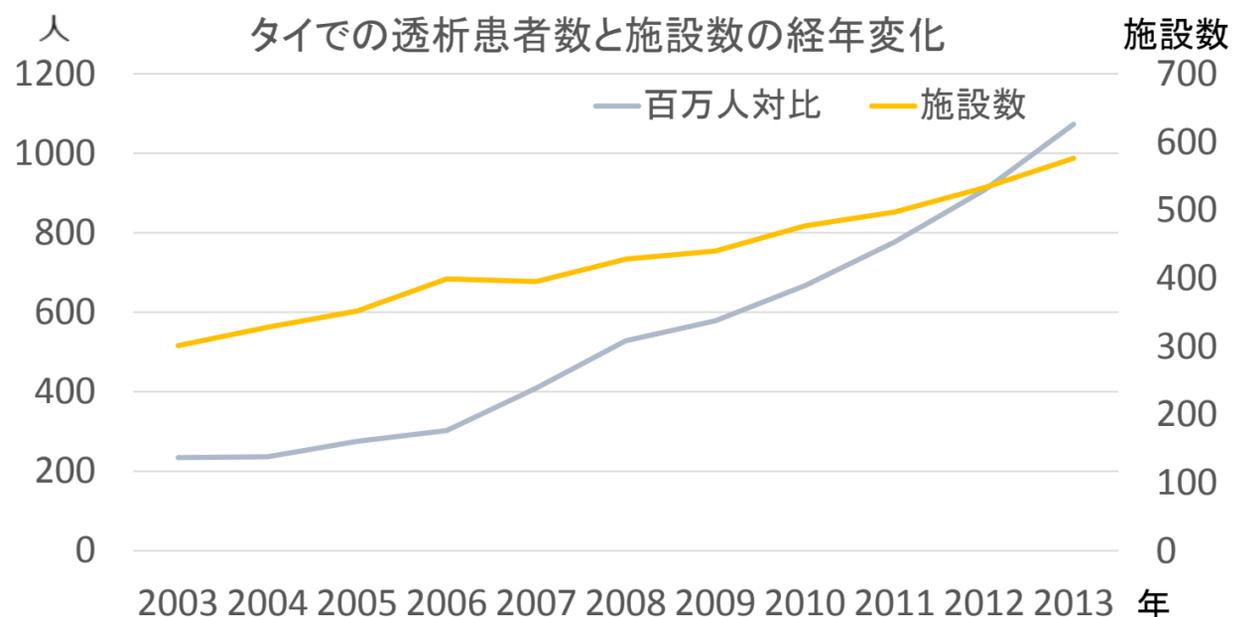
タイと日本における透析患者の経年変化

(人口百万人あたりの患者数) ■ タイ ■ 日本



タイでの透析患者数と施設数の経年変化

— 百万人対比 — 施設数



【透析クリニック】

Chamlong Srimuang Fountiodan

(チャムロン・シームアン・ファウンデーション)

透析患者を700人近く受け入れている透析専門クリニック。治療費は透析1回につき800バーツ（約3000円）で設定していた。診療科は透析のみで合併症の治療は出来ない。また、透析以外での治療が必要な疾患をもつ患者は受け入れを制限していた。透析での治療で使用するダイアライザはReuseで最大24回使用。機器管理やメンテナンスはメーカー任せであった。



【総合病院】

Samitivej Hospital Sukhumvit

(サミティヴェート病院スクムビット)

株式を上場して運営を行っている民間の総合病院。

治療費は透析1回につき6000バーツ（約24000円）で設定していた。

透析以外の診療科もあり、合併症の治療も可能だが診療科ごとに治療費が発生。また、透析以外での治療が必要な患者に受け入れ制限はないが費用が高額になるため民間保険などの給付を受けないと治療診断をするのが困難。透析はダイアライザは1回のみでの使用であった。機器の管理や整備はメーカー任せであった。



【日本とタイでの各施設の比較】

透析費用は日本では個人の負担は公的負担であり1回4時間以上で21950円。タイでの透析クリニックでは自己負担で1回あたり約3000円。民間の総合病院では1回あたり約26000円とそれぞれの透析費用に大きな違いがあった。

ダイアライザーは日本とタイの総合病院は1回であり、タイの透析クリニックでは自己負担額を軽減させるため最大24回ダイアライザーの再利用をしていた。

部屋割りは日本とタイの透析クリニックは大部屋で感染患者は隔離をしている。タイの民間の総合病院では全室個室であった。

施設	透析費用	ダイアライザ 使用回数	部屋割り
日本	4時間以上 約21950円/回 (公的負担)	1回使用	大部屋が主流 (感染は隔離)
タイ 施設A 透析クリニック	約3000円/回 (自己負担)	最大24回使用 (再利用)	大部屋 (感染は隔離)
タイ 施設B 民間の総合病院	約26000円/回 (自己負担)	1回使用	全ベッド個室

【結果】

- ・日本では透析費用の公的負担があるため個人での負担は軽減されていると言える。また、タイの現状では自己負担での透析を行っているため維持するには費用を払い続けなければならない。
- ・タイでは施設の違いにより請求される費用が異なり、提供しているサービスや医療の質に格差が存在している。
- ・タイでは透析患者、及び透析施設数が増加傾向にある。今回訪問した2施設は機械の管理はメーカーが行っており、即時な機器対応をするためにも今後、臨床工学技士が必要だと感じた。